

台風への備え

9月に入り、これから本格的な台風のシーズンがやってきます。この三連休、日本に上陸した台風14号では六ヶ所村には大きな被害の報道はありませんが、これからの季節は、天気情報に気を配り、いざというときに備えた行動がとれるように準備を進めておきたいものです。2019年10月の台風19号（青森県にはそれほど大きな影響はありませんでした）の際には記録的な大雨となりました。特に、静岡県や関東地方、甲信越地方、東北地方などで記録的な大雨となり、甚大な被害をもたらした。またこの台風は、昭和54年台風第20号以来、40年ぶりに死者100人を越えた台風となりました。

この台風の影響で、洪水や土砂に襲われ亡くなった者が続出しました。死亡した際の状況が判明した64人を分析したところによると、住宅内で水や土砂に襲われ死亡したのは27人で4割超を占め、少なくとも3割近い17人が車で移動中に死亡したとされています。



まずは、「自助」が大切です。自分が生活していくうえで最低限必要なものは日頃から自宅に備蓄して持ち出せるようにしておくことが大切です。

そして、お互い不足分を補って助ける「共助」です。

最後は「公助」です。ライフラインが機能しなくなれば、当然、地域の皆さんは避難所や公的機関の助けを受けなくてはなりません。しかし、我々が意識しておきたいのは「公助」は「共助」や「自助」のうえに成り立つものであることです。

先人は我々にメッセージを残しています。「備えあれば 憂いなし」日頃からの心の備えも忘れずにご家庭での準備もお願いします。

台風・豪雨災害について学ぼう

気象情報に注意しよう

台風や豪雨などはその襲来時期や規模、被害の程度などの予想が可能です。

台風や大雨が近づいたら、気象情報に十分注意し、適切な対応をしましょう。

台風の年間平均発生数

発生数の平均は年間約28個。そのうち日本に上陸するのは平均約3個で、夏の終わりから秋の初めにかけて多く発生します。進路の左側より右側の方が強風になりやすいため被害が大きくなることが予想されます。

集中豪雨に要注意

狭い地域に限られ突発的に降るため、その予測は比較的困難であり、中小河川の氾濫や土砂崩れ、がけ崩れなどによる大きな被害が予想されます。

台風の大きさと強さ

台風の大きさは「風速15m/s以上の半径」、強さは「最大風速」で表されています。

1. 台風の大きさと階級分け

大型（大きい）—風速15m/s以上の半径が500km以上800km未満

超大型（非常に大きい）—風速15m/s以上の半径が800km以上

2. 台風と被害

風速10m/s—風に向かって歩きにくくなる。取付けの不完全な看板やトタン板が飛び始める。

風速15m/s—風に向かって歩けない。ビニールハウスが壊れ始める。

風速20m/s—しっかりと体を確保しないと転倒する。鋼製シャッターが壊れ始める。

風速25m/s—屋外での行動は危険。立ってられない。樹木が根こそぎ倒れ始める。

風速30m/s—屋根が飛ばされる。木造住宅の全壊が始まる。